

## 令和7年度第2回木更津市総合計画審議会 会議録

I. 開催日時 令和8年3月19日（木）午後2時00分から午後4時00分まで

II. 開催場所 木更津市役所駅前庁舎 防災室・会議室

III. 出席者（敬称略）

【審議会委員】

池田庸、石渡肇、大西香世、神谷信久、越路武史、小林孝雄、小宮一則、清水一太郎、  
下村健介、白坂英義、瀬沼健太郎、高木愛子、滝口君江、武内貴史、松田紀道、  
宮川絵理子、吉田昌弘

【木更津市】

渡辺市長、品川企画部長、安田企画部次長、鎌田係長、土屋主査、久野主任主事

【株式会社アイ・ディー・エー（委託会社）】

梶原、佐藤

IV. 議題及び公開非公開の別

（1）第4次基本計画の策定について（目的・スケジュール・基礎調査） 公開

（2）市民アンケートの結果報告について 公開

（3）タウンミーティングの中間報告について 公開

V. 傍聴人の数 0人

VI. 会議の内容

1. 会長あいさつ

○企画課 鎌田係長

お待たせいたしました。ただいまから、第2回木更津市総合計画審議会を開催いたします。

なお、ただいまの時間ビル全体の自衛消防訓練中となり、場合によっては館内放送等が流れる可能性がございますので、あらかじめご承知おきください。また、本日の審議会につきましては、会議録及び記録書作成のため、会議の内容を録音・撮影させていただきますので、あらかじめご了承ください。会議開催にあたり、本来、ここで渡辺市長よりご挨拶申し上げる予定でしたが、市議会の終了が延びており、終了次第に参加させていただきますので、その際に改めてご挨拶させていただきます。

続きまして、清水会長からご挨拶をいただきます。

○清水会長

委員の皆様には、ご多忙のところ、令和7年度第2回木更津市総合計画審議会にご出席いただき、ありがとうございます。本日は、次第にございますように、第4次基本計画の策定に向けた、調査結果の報告が、議題となっています。委員の皆様と共通の認識を持ち、より良いプランとするために、忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願

いたします。

#### ○企画課 鎌田係長

ありがとうございました。続きまして、本日3月19日から本審議会の委員にご就任されました、一般社団法人木更津市観光協会の小宮委員に本日、ご出席いただいておりますので、ご紹介させていただきます。それでは、小宮委員から、ご挨拶をお願いいたします。

#### ○小宮委員

ただいまご紹介をいただきました木更津市観光協会の協会長に、昨年の夏から拝命をいたしました小宮と申します。また、会社としましては、交通事業者である日東交通の責任者を担っております。交通、観光、いずれも、こちらの木更津市の計画に密接に関係をしております。微力ながら、市政の発展に努めてまいればと思っております。皆様よろしく願いいたします。

#### ○企画課 鎌田係長

ありがとうございました。また、本日は、第4次基本計画策定するにあたり業務を委託しております株式会社アイ・ディー・エーの梶原様と佐藤様にご出席いただいております。

それでは、議事に入らせていただく前に、資料の確認をさせていただきますと存じます。事前に配布させていただきました資料といたしまして、会議次第、委員名簿、資料1「令和7年度第2回木更津市総合計画審議会資料」、資料2「参考資料 県内6市の施政方針等」、本日の配付資料といたしまして、座席表、きさらづみなトークのチラシでございます。資料に落丁等ございましたら、事務局までお申し出いただきますようお願い申し上げます。ここで、2点資料の修正がございますので、お伝えさせていただきます。

1点目、資料1の3ページ右側のスケジュールについてでございますが、令和8年7月から9月の欄に、第3回総合計画審議会（7月から8月）と記載しておりますところ、カッコの中を8月から9月へ修正させていただきます。

2点目、資料2の12ページ右側の下から6行目、第4 まちのにぎわい・活力づくりの部分は本文中の文言ではなくタイトルの部分となります。左側の第3 まちを支える人づくりのようにマーカーで表示するところ、改行ミスとなりますので、修正のほどよろしくお願いいたします。申し訳ございません。

なお、資料2につきましては、近隣市の施政方針となっておりますので、本日の議題では使用いたしません。今後の施策の検討などにおいて参考にしていきたいと考えておりますので、ご自宅等でお時間のある際の一読いただくと幸いです。それでは、この後、審議会を進行してまいります。委員の皆様のご発言の際は、挙手のうえ、お手元のマイクのボタンを押していただき、ランプがついてから発言いただき、終わりましたら、もう一度マイクのボタンを押していただきますようお願いいたします。

## 2. 議題

### 議題(1) 第4次基本計画策定について(目的・スケジュール・基礎調査)

#### ○企画課 鎌田係長

それでは議事に入ります。附属機関設置条例第6条第1項の規定により、「会長が会議の議長となる」ことになっておりますことから、清水会長に議事の進行をお願いいたします。

#### ○清水会長

ただいま、事務局から説明がありましたとおり、会長が議長ということでもありますので、私が議長を務めさせていただきます。円滑な議事進行にご協力のほど、お願いいたします。本日は、飯田委員、国友委員、鈴木委員、曾我井委員、玉丸委員、中村委員、平野委員、平柳委員の8名が欠席、出席者は、17名であり、附属機関設置条例第6条第2項の規定により、半数以上の出席がございますので、会議は成立しました。また、本日の審議会は、「木更津市審議会等の会議の公開に関する条例」の規定により、「公開」となっており、会議資料、会議録も公開となります。なお、本日、傍聴希望者はおりませんので、ご報告いたします。

それでは、議事に入ります。議題(1)「第4次基本計画の策定について(目的・スケジュール・基礎調査)」を議題といたします。事務局から説明を求めます。

#### ○企画課 安田次長

資料1を1枚お開きください。今回の総合計画策定の目的についてご説明いたします。

木更津市はこれまで、第3次基本計画のもとで「魅力あふれる創造都市きさらづ」を将来都市像として掲げ、10年間にわたり取り組みを進めてきました。しかし、この計画は令和8年度で終了します。今まさに「次の10年をどう描くか」という重要な時期を迎えています。

また、令和24年には市制施行100周年を迎えます。100周年は、これまでを振り返るだけでなく、これからの100年に向けて、どのような都市を目指すのかを市民と共に考える大きな機会です。今回の計画は、「木更津が次の世代に何を残すのか」という問いに、市民と一緒に答えを描くためのものです。そのために、現状を把握し、課題を見つめ、未来の姿を明確にする必要があります。人口減少・少子高齢化、産業構造の変化、災害リスクや気候変動、地域間競争の激化など、自治体を取り巻く環境は急速に変化しています。

こうした状況の中で、木更津市がどのような未来像を持ち、どのように持続可能な都市として成長していくのか、その長期的なビジョンを示すことが今回の計画策定の大きな目的です。こうした視点から、皆様には専門的な立場から幅広いご意見をいただきたいと考えています。

次に、今回の審議会で検討する内容についてです。1ページの左下半分くらいからのご説明になります。今回の審議会では、計画の土台となる基礎調査の妥当性を確認します。国の動向、人口推計、SWOT分析、政策分析など、計画の根拠となる情報を整理し、現状を正確に

把握します。次に、第3次基本計画と第3期総合戦略の成果と課題を検証します。これまでの施策がどこまで成果を上げ、どこに課題が残っているのかを明らかにし、次期計画に引き継ぐべき点と改善すべき点を整理します。さらに、市民アンケートやタウンミーティングの結果を踏まえ、市民の声が計画に適切に反映されているかを確認します。市民の声は、計画の方向性を決めるうえで欠かせない要素です。そのうえで、第4次基本計画と第4期総合戦略の構成案、骨子案、素案を順次まとめ、最終的には計画書や概要版のデザイン、進行管理の仕組みまで含めて議論を進めていきます。

こうした一連の検討を通じて、現状の延長線ではなく、理想の未来から逆算した計画をつくることを目指しています。これは国が推奨しているバックカスティングとロジックモデルを組み合わせた手法となります。

次に、2ページをお開きください。検討の流れと基本的方向性についてです。今回の計画策定では、国が推奨する「ロジックモデル」と「バックカスティング」の考え方を取り入れています。ロジックモデルは、施策の目的・手段・成果を整理し、「なぜこの施策を行うのか」を明確にする手法です。一方、バックカスティングは、目指す未来の姿から逆算して必要な施策を導く方法で、現状の延長では到達できない未来を描くために有効です。ただし、理想だけでは現実とのずれが生じるため、現状から積み上げるフォアカスティングもあわせて用い、両者を行き来しながら検討を進めていきます。平たく言えば、相互に結果を確かめつつ調整していく形です。この往復によって、実現可能でありながら未来志向の高い計画をつくることができます。スケジュールとしては、令和7年度に基礎調査、市民アンケート、タウンミーティングを実施し、令和8年度に審議会と庁内会議を重ねながら、構成案、骨子案、素案を順次まとめていきます。秋には市民意見の聴取、冬にはパブリックコメントを行い、令和9年3月の議会で最終的な計画案の決定を目指します。このプロセスそのものが、市民参加の仕組みとして機能します。計画は行政だけでつくるものではなく、市民とともに育てていくものと考えております。

3ページになります。バックカスティングとフォアカスティングの並行作業については、先ほど説明した通りでございますが、図化すると以下ようになります。基礎調査結果や第3次基本計画及び第3期総合戦略の検証・評価は先行して行いますが、来年度早々には第4次基本計画及び第4期総合戦略の全体構成や体系、施策、主な取り組みなどの検討に着手します。その後双方の結果を参照しながら、整合を図り、計画をまとめていくイメージとなります。市民意見については、第3次基本計画及び第3期総合戦略の検証にも活用しますが、将来都市像や全体構成、体系、施策にも反映してまいります。具体的な会議のスケジュールは右側にあります通りです。本日が3月19日でございます。その後、令和8年度に入り、5月、7月～8月、8月～9月、10月～11月、令和9年の1月～2月に実施予定となっております。その他関連する会議も記載しております。

4ページになります。ここからは、令和7年度に実施した基礎調査の結果について、できるだけ具体的にお話しします。今回の調査は、単に数字を並べるためのものではなく、木更津市が直面している現実を正確に把握し、次期計画にどのような方向性を持たせるべきかを考えるための重要な基盤となるものです。4ページ左の表になりますが、令和8年の政府方針では、「日本列島を強く豊かにする」ことを目標に、公共交通の維持、地場産業の強化、デジタル化、災害対策などへの重点投資が示されています。これらは木更津市の課題とも深く関係しています。まず「強い経済」の実現では、社会課題に先手を打つ危機管理投資や成長投資を進め、経済成長を加速させるとしています。また、必要な予算を確保したうえで複数年度にて財政運営を行い、安全を守りつつ所得向上や消費回復を目指します。物価高対策、税制の見直し、食料・エネルギー安全保障、国土強靱化、人材育成など幅広い政策が進められます。次に「地方を伸ばし、暮らしを守る」取り組みとして、地域産業のクラスター化、地方DX、地場産業振興、公共交通の維持を重点化します。さらに、外国人との共生や治安対策、大規模災害や感染症への迅速で柔軟な対応を強化し、能登半島地震をはじめとする復興にも力を入れるとしています。最後に「外交力と防衛力の強化」です。外交・防衛・経済・技術などの国力を総合的に高め、「責任ある日本外交」を進めるとしています。日米同盟や同志国などとの連携を強化し、「自由で開かれたインド太平洋」を推進します。また、日本自身の判断で防衛力や情報収集能力を大幅に強化する方針です。4ページの右側をご覧ください。政府の見通しでは、2026年度の実質GDP成長率は1.3%とされています。個人消費は1.3%の増加が見込まれていますが、物価上昇率（消費者物価）が1.9%と予測されているため、実質的な生活のゆとりは大きく増えるわけではありません。木更津市にとって重要なのは、次の3点です。第一に、生活コストの上昇が続くこと。物価上昇は、子育て世帯や高齢者世帯にとって負担増につながります。市民アンケートでも「生活の不安」が増えていることが示されており、次期計画では生活支援策の強化が求められます。第二に、設備投資の増加が企業誘致の追い風になること。企業の投資意欲が高まる見通しで、木更津市の立地条件の良さを生かした企業誘致が期待できます。特に、アクアラインを活用した物流拠点や、臨海部の産業再編は大きな可能性を秘めています。第三に、地域経済が内需依存型になること。外需の寄与度がマイナスであるため、地域内でお金が回る仕組みを強化する必要があります。これは、アクアコインの普及や地産地消、地域商業の活性化といった施策の重要性を裏付けるものです。

5ページに入ります。木更津市の人口は、出生率が上昇した場合のシミュレーションも示されていますが、いずれのケースでも長期的にはほぼ、減少に向かう見通しです。詳細は、枠内の文章に示している通りですが、総人口推計において合計特殊出生率が人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の2.1）まで上昇したとした場合のシミュレーション（シミュレーション1）においてのみ、増加傾向となります。これは、近年の木更津市の人口動向において、社会増となっているため、その社会増の傾向が変わらず、自然増となれば、

人口が増加すると解釈できます。社会増が均衡した場合には、当然ですがシミュレーション2のように、減少傾向となります。なお、特に注目すべきは 老年人口比率の上昇です。老年人口比率推移のパターン1（全国の移動率について、足元の傾向が続くと仮定した推計（社人研推計準拠））をご覧いただければわかりますが、3 割以上の方が老年人口となることが予測されています。合計特殊出生率の上昇や人口移動の増加の継続に対する施策が重要課題となっていると言えます。これは、医療・介護・交通・地域コミュニティなど、あらゆる分野に影響します。さらに、年少人口の減少は学校規模の適正化や子育て支援の在り方に直結し、生産年齢人口の減少は地域経済の担い手不足を意味します。人口減少は単なる数字の問題ではなく、都市の構造そのものを変える問題です。

続いて、木更津市の現状を整理するために実施した SWOT 分析 についてご説明します。6 ページです。SWOT 分析では、市の「強み」「弱み」「機会」「脅威」を体系的に整理し、次期総合計画の方向性を検討するための基礎資料としています。まず 強み (Strengths) です。木更津市の最大の強みは、アクアラインや館山道、圏央道がつながる優れた交通アクセスで、羽田空港から 30 分という立地は物流・観光で大きな優位性があります。また、電子地域通貨「アクアコイン」による域内経済循環の仕組みが確立している点や「オーガニックシティ」ブランドによる高付加価値施設の誘致、子育て世代の転入増も強みとされています。次に弱み (Weaknesses) です。新興エリアが伸びる一方で、木更津駅周辺の空洞化が進み、都市機能の二極化が課題です。また、アウトレット中心の“立ち寄り型”消費により市内周遊が弱い点、開発の分散によるインフラ維持費の増大、公共交通の弱さ、老朽インフラの存在も弱みとされています。次に機会 (Opportunities) です。臨海部のカーボンニュートラルポート化、水素エネルギーなど環境産業の拠点化は大きな機会となります。さらに、富裕層向け体験観光、二拠点居住や移住ニーズの増加、インバウンドの伸び、自動運転やドローンなど先端技術の活用も成長機会として整理できます。最後に脅威 (Threats) です。アクアライン依存による交通料金・災害リスク、地価上昇による子育て世代の流出、製造業の脱炭素化による産業構造変化、少子高齢化、周辺市との人口獲得競争などが脅威です。加えて、通過型観光から転換できない場合、市内経済への効果が限定される懸念もあります。これらの分析結果は、次期総合計画で「強みを活かし、弱みを補い、機会を捉え、脅威に備える」戦略づくりの根拠となり、クロス SWOT 分析による方向性の検討につながります。

これら強み・弱み・機会・脅威の状況を受け、クロス SWOT 分析をかけますと、次のようなことが想定できます。まず「積極的攻勢：強みを活かして機会を最大化する」です。アクセスの良さを生かし、CNP と物流を組み合わせた先進拠点化や次世代エネルギーのカーボンニュートラルポート化、外資や先端企業の誘致が期待できます。また、サステナブル・ツーリズムでは、オーガニックブランドと富裕層需要を結びつけ、クルックフィールズのような滞在型体験施設を展開する可能性があります。さらに、電子地域通貨「アクアコイン」に

よる域内経済の可視化や施策展開、ポルシェ・エクスペリエンスセンターなどの誘致による富裕層向け体験施設の増加で、従来の郊外イメージを刷新することもできます。次に「弱点克服：機会を捉え弱みを改善する」です。テレワーク需要を駅前に誘導したり、リノベーションまちづくりで既存ストックを活用してインフラコストを抑えることが考えられます。また、アウトレット客を市街地へ誘導し、体験スポットで滞在を延ばす仕組みも必要です。一方、金田地区などでは移住者増で地価が上昇し、若い世代が家を建てにくくなっている点の改善が求められます。さらに、開発エリアが分散しているため、上下水道や道路維持のコストが割高になる財政リスクも課題です。続いて「差別化戦略：強みで脅威を跳ね返す」です。子育て支援競争に対し、有機米給食やアクアコインなど“木更津ならではの価値”で差別化を図ることが有効です。また、アクアライン寸断時に備え、域内通貨を活用した自立型経済圏の強化も重要です。臨海部の重工業は依然として主要な税収源ですが、カーボンニュートラルの流れの中で産業転換が求められており、物流拠点化や環境関連産業の育成が急務となっています。最後に「防衛・撤退：弱みと脅威の最悪を避ける」です。担い手不足や維持コスト増に対応するため、居住誘導区域に都市機能を集約し財政の健全性を保つことが重要です。また、既存産業にCNP技術を導入し、雇用を守りながら次世代型産業へ移行させることも有効です。アクアラインの料金引き下げにより、都心との流動が一方向にならないよう、木更津への来訪者を増やす工夫が求められます。さらに、アウトレット中心の“通過型観光”から、市内宿泊や飲食へ回遊させる“着地型観光”への転換が大きな課題です。

資料が飛びまして、P26 内閣府地方創生推進本部が提供している RAIDA-AI による木更津市の現況分析を説明します。木更津市の人口増減としては、自然減少が進行する一方、転入超過による社会増加が人口減少を緩和しています。今後優先的に取り組むべきは、「自然減」への対策、すなわち出生率の改善や子育て支援などによる自然増の促進です。社会増も重要だが、まずは自然減対策を優先にと分析しています。次に、社会増減についてです。資料では、木更津市が一定の社会増を維持していることが示されています。特に、30代を中心とした子育て世代の転入が多いことが特徴として挙げられています。これは、木更津市が持つ交通利便性や住宅環境が、子育て世代にとって魅力的に映っていることを示すものです。一方で、15～19歳の若年層では転出が多く、進学や就職を機に市外へ移動する傾向が続いていることも示されています。課題対策として、若年層が市内に定着できるよう、進学・就職支援などが求められています。自然増減については、木更津市の合計特殊出生率は全国平均より高いものの、人口維持に必要な水準には達成していない。未婚率の低さ、結婚率の高さが出生率を下支えしているが、出生数が死亡数を上回る自然増は見込めず、人口減少対策が必要と分析しています。課題対策として、子育て支援や若年層の定住促進など出生数向上に向けた施策が求められている旨、分析されています。次のページが1985年からの人口等のデータベースを分析しています。

続いて P28 木更津市の地域少子化指標ですが、木更津市の合計特殊出生率の背景要因として、未婚率の低さが全国平均よりも出生率を下支えしている可能性が示唆される。木更津市の女性の未婚率は32.49で、全国平均の39.52%よりも約7ポイント低くなっている。15歳から49歳までの女性を分母に抽出出生数を分子とする有配偶出生率は、木更津市は71.03で全国平均の70.35とほぼ同水準であることから、出生率の主な原因は未婚率の低さにあると言える。言い換えれば、他の自治体・全国平均より結婚率が高いので、特殊出生率も高いことがわかります。木更津市のFrom-to分析によると木更津市と周辺自治体との間で人の移動が活発であることが示されています。特に、君津市、袖ヶ浦市、市原市、千葉市などとの間で転入・転出が多く、内房地域全体で人口の移動が繰り返されている状況が読み取れます。これは、木更津市が広域的な生活圏の中で位置づけられていることを示しており、周辺自治体との競争や連携が今後ますます重要になることを意味しています。総じて、RAIDA-AIの分析から読み取れるのは、「自然減は拡大し、社会増がそれを一定程度補っているが、長期的には人口減少が避けられない」という構造です。さらに、「子育て世代の転入が強みである一方、若年層の転出と高齢化の進行が課題である」という点も資料から明確に読み取れます。これらの分析結果は、次期総合計画において、子育て世代の定着、若者の流出抑制、高齢化への対応、地域間連携の強化といった施策を検討するうえで、極めて重要な根拠となります。以上の分析を踏まえると、次期計画に求められるのは、人口構造の変化に正面から向き合うこと、地域ごとの課題の温度差を丁寧に拾うこと、そして木更津の強みを“都市の選択肢”として再定義することです。木更津市は、強みと課題が非常に明確な都市です。この都市が次の10年でどのように変わるのか。その方向性を、市民とともに描いていくことが求められています。説明は以上でございます。

#### ○清水会長

ただいま、説明がありました。ご質問、ご意見など、ございましたらお願いいたします。

(質疑なし)

#### 議題(2) 市民アンケートの結果報告について

##### ○清水会長

続きまして、議題(2)、「市民アンケートの結果報告について」を議題といたします。事務局から説明を求めます。

##### ○企画課 安田次長

7ページになります。市民アンケート結果の報告です。昨年9月1日～30日までの間、2,000人を対象に市民アンケートを実施したところ899人から回答をいただきました。うちWeb回答が約40%、郵送回答が60%です。属性等でございますが、性別は男性

43.8%、女性 51.2%で大きな偏りはありません。年齢では 70 歳代が 18.0%と最も多く、60 歳代、80 歳以上が続き、中高年層の回答が中心となりました。職業は「勤め人」が 32.6%で最も多く、「無職」「専業主婦・主夫」が続いています。家族構成は「2 世代（親と子）」が 46.7%と最も多く、核家族が中心であることがうかがえます。市民アンケートについては、資料に示されている内容をもとに、木更津市民がどのように市を捉え、どのような点に満足し、どのような点に課題を感じているのかを丁寧に読み解く必要があります。まず、木更津市への「愛着」や「誇り」についてですが、資料では、8 割を超える市民が肯定的な回答を示しています。これは、「愛着がある」「どちらかといえば愛着がある」と回答した市民の割合が非常に高いことを意味しており、木更津市が市民にとって“住み慣れたまち”“親しみのあるまち”として認識されていることがわかります。また、「住みごこち」についても、資料では約 8 割の市民が満足しているという結果が示されています。これは、木更津市が日常生活を送るうえで大きな不便を感じさせない環境を一定程度維持していることを示すものです。

9 ページをお開きください。一方で、アンケートでは「良い点」と「良くない点」がそれぞれ整理されており、市民の評価が一様ではないことも明らかになっています。良い点として挙げられているのは、資料にあるとおり、「住み慣れている」「買い物が便利」「自然環境が良い」「交通の便が良い」といった項目です。これらは、木更津市が持つ地理的な利点や、商業施設の充実、自然環境の豊かさが、市民の生活満足度に寄与していることを示しています。一方で、良くない点として挙げられているのは、資料に示されているとおり、「交通の便」「買い物の不便」「子育て環境」「文化施設」「医療体制」などです。ここで重要なのは、「交通の便」や「買い物の不便」が、良い点と悪い点の両方に挙がっているという点です。これは、市内の地域差が大きいことを示しています。例えば、中心部や金田地区のように商業施設が充実している地域では「買い物が便利」と感じられる一方、内陸部や公共交通が弱い地域では「買い物が不便」「交通が不便」と感じられている可能性があります。また、「子育て環境」や「医療体制」について不満が挙がっている点も資料に示されています。これは、子育て世代や高齢者が増える中で、保育・教育・医療といった生活基盤に対する市民の期待が高まっていることを示しています。さらに、「文化施設」に関する不満が挙がっている点も資料に記載されています。これは、文化・芸術に触れる機会や、地域の交流拠点としての機能が十分ではないと感じている市民が一定数存在することを示しています。

11 ページをお開きください。こちらは、基本計画に位置付けた 48 の施策に対する満足度と優先度となります。満足度が高い項目は「保健の充実」「医療の充実」「資源循環」「消防・救急体制」「上水道」など、生活の基盤に関わる分野でした。一方、満足度が低い項目は「交通体系」「国際交流」「防犯」「住環境」「景観形成」などとなっています。今後の優先度では、「医療の充実」が 76.3%と最も高く、「防災」「防犯」「交通体系」「消防・救急」な

ど、市民の安全・安心に直結する分野が上位を占めています。行政サービス 48 項目について、市民の皆さまに「現在の満足度」と「今後の優先度」を評価していただきました。この 2 つを組み合わせることで、市民が本当に求めている行政の重点分野がより明確になります。まず、満足度では「保健の充実」や「医療の充実」、「消防・救急体制」、「上水道」など、生活の安全や健康に関わる分野が比較的高い評価を得ています。一方で、「交通体系の充実」や「防犯体制」、「住環境の整備」などは満足度が低く、日常生活の中で不便や不安を感じている様子がうかがえます。次に、優先度を見ると、市民が今後特に力を入れてほしいと考えているのは「医療」「防災」「防犯」「交通体系」「消防・救急」といった、暮らしの基盤に関わる分野です。いずれも満足度より優先度が大きく上回っており、改善への期待が強いことがわかります。

13 ページをお開きください。満足度と優先度を加重平均の考え方で整理すると、満足度が低く優先度が高い分野、つまり「交通体系」「防犯」「住環境」「防災」などが、最も改善ニーズの高い領域となります。逆に、満足度も優先度も高い「医療」「保健」「消防・救急」などは、現在の取り組みを維持しつつ、引き続き重点的に進めるべき分野といえます。この分析から、市民が求めているのは、まず「安心して暮らせる基盤の強化」であり、次期総合計画においても、これらの分野を優先的に位置づけていく必要があることが明確になりました。以上のように、全地区を通じて、高齢化や人口減少への対応、交通や防災、医療など生活基盤の強化、地域コミュニティの維持、そして地域資源を活かしたにぎわいづくりが共通の課題として浮かび上がりました。一方で、地区ごとに状況や課題は大きく異なっており、地域特性に応じた施策の検討が必要であることが明確になっています。説明は以上でございます。

#### ○清水会長

ただいま、事務局から説明がありましたが、ご質問、ご意見など、ございましたらお願いいたします。

(質疑なし)

#### 議題(3) タウンミーティングの中間報告について

##### ○清水会長

続きまして、議題(3)「タウンミーティングの中間報告について」を議題といたします。事務局から説明を求めます。

##### ○企画課 安田次長

資料15ページになります。市民アンケート、きさらづみなトーク、パブリックコメント

を実施するが、本計画策定にあたり、各地区における将来のありたい姿、各地区の課題や要望などの意見、分野連携などに着目したタウンミーティングを行いました。タウンミーティングは14の地区まちづくり協議会に協力いただき、計7日間・8会場において延べ143人に参加いただきました。これは、各地区の住民から直接意見を伺い、地域ごとの課題やニーズを把握することを目的としたものです。資料では、各地区で出された主な意見が整理されており、地域によって課題の性質が大きく異なることが示されています。

資料17ページになります。富来田地区では、人口減少と高齢化への不安が最も多く寄せられました。医療機関が少なく、整形外科や眼科などの不足が生活の不安につながっているほか、歩道の少なさや危険な交差点など、日常の移動に関する課題が多く指摘されています。また、スーパーがなく買い物に不便であることや、市街化調整区域の見直し、公園整備、空き家の活用など、生活基盤の改善を求める声が目立ちました。

資料18ページになります。岩根地区では、防災や防犯に関する課題が中心となりました。水害対策や排水路の整備、避難所の充実など、安全に関わる意見が多く、空き家の増加やJアラート時の対応への不安も挙げられています。また、町内会の担い手不足や新旧住民の交流不足など、地域コミュニティの維持が大きな課題となっています。交通面では、公共交通の不足や岩根駅への快速停車の要望があり、道路整備に関する意見も多く寄せられました。

資料19ページになります。金田地区では、急速な人口増加に伴う課題が顕著でした。アウトレット周辺の渋滞や危険な交差点の改善が強く求められ、特に休日は交通量が多く生活に支障が出ているという声が寄せられました。医療や子育て環境への要望も多く、入院できる病院や子育て支援施設、公園の整備など、人口増に見合ったサービスの拡充が必要とされています。また、新住民の自治会加入が進まないことも課題として挙げられました。

資料20ページになります。鎌足地区では、人口減少と高齢化への危機感が強く、高齢者が安心して暮らせる環境づくりや、若い世代の定住につながる取り組みが求められました。自然豊かな地域特性を活かした農産物のブランド化やグリーンツーリズムの提案がある一方で、耕作放棄地や鳥獣被害など、農地管理に関する課題も多く指摘されています。移動手段の確保や防犯体制の強化など、生活の不安を減らすための意見が多く見られました。

中央地区では、都市部ならではの生活環境の改善が中心でした。公園整備や太田山公園の活用、歩道や側溝の整備、水害対策など、日常生活の質を高めるための意見が多く寄せられました。また、交通安全の向上や、神社・寺院を活かしたにぎわいづくりの提案も見られました。

資料21ページになります。請西・真舟小地区では、交通安全や生活環境の改善に関する意見が多く寄せられました。歩道の整備や道路の安全対策、水害への備えなど、日常生活の安心を高めるための課題が中心となっています。また、地域の公園や公共施設の活用を通じてにぎわいづくりについても意見が出されました。

資料22ページになります。中郷地区では、交通の不便さと高齢化が大きな課題として挙げられました。夜間の移動手段がないことや、高齢者の足の確保が必要であるという声が多く、デマンド交通の導入などが求められています。また、農地の維持管理や鳥獣被害、空き家の増加など、農村地域特有の課題も多く指摘されました。

資料23ページになります。八幡台小学校区では、子育て世代が多い地域特性を反映し、遊び場の整備や学校周辺の安全確保など、子どもを中心とした生活環境の改善が求められました。また、道路の安全対策や歩道の確保など、日常生活に密着した課題が多く寄せられています。

波岡西地区では、生活環境の改善と地域コミュニティの維持が課題として挙げられました。公園や公共施設の整備、道路の安全対策など、地域の暮らしを支える基盤づくりに関する意見が中心となっています。また、自治会の担い手不足も課題として示されています。

資料24ページになります。波岡公民館地区では、地域の高齢化が進む中で、移動手段の確保や生活環境の改善が求められました。公園整備や道路の安全対策、公共施設の活用など、地域の暮らしを支えるための意見が多く寄せられています。

資料25ページになります。西清川地区では、老朽化したインフラの改善が大きな課題となりました。道路や側溝の整備、排水対策など、生活基盤の再整備が求められています。また、空き家の増加や地域コミュニティの弱体化も課題として挙げられました。

清見台・太田地区では、生活環境の改善と防災対策が中心でした。道路や公園の整備、避難所の充実など、日常生活の安心を高めるための意見が多く寄せられています。また、公共施設を活かした地域のにぎわいづくりについても提案がありました。

東清川地区では、生活基盤の整備と地域コミュニティの維持が課題として挙げられました。道路や側溝の整備、排水対策などのほか、空き家の増加や地域のつながりの弱体化に対する懸念が示されています。

タウンミーティング全体を通じて、高齢化や人口減少への対応、交通や防災、医療など生

活基盤の強化、地域コミュニティの維持、そして地域資源を活かしたにぎわいづくりが共通の課題として浮かび上がりました。一方で、地区ごとに状況や課題は大きく異なっており、地域特性に応じた施策の検討が必要であることが明確になっています。説明は以上でございます。

**○清水会長**

ただいま、事務局から説明がありました。ご質問、ご意見など、ございましたらお願いいたします。

**○吉田委員**

全体は良くまとめられていて大変な作業だったと思います。

最近、人手不足や円安により外国人が様々な都市で増えていると思います。木更津市でも外国人の労働者はいると思いますが、どのくらいの数がいるのでしょうか。もしデータがありましたら教えていただきたい。私の家の隣にもベトナム人の家族がおりますが、ごみの出し方がわからなくて、地区でトラブルのようなこともありました。説明の中では外国人のことはありませんでしたが、もし人数が分かるようであれば教えていただきたい。

**○企画課 安田次長**

全体でしたら、2%から3%ぐらいの間だったと思いますが、ただ近年の人口の転入率は非常に高く、総人口に対する割合としましては、令和6年12月で2.79%となっております。毎月転入人口として社会増を算出していますが、外国人の割合はおそらく10%から20%ぐらいだったと思います。次回の審議会の際に具体的な資料をご用意させていただければと思います。

**○吉田委員**

それは集中しているのでしょうか。それとも年々増えているということでしょうか。また地域的にはどのような状況でしょうか。

**○企画課 安田次長**

地域ごとの状況は手元にございませぬので、次回の審議会の際に資料をご用意させていただきます。

**○吉田委員**

私は海外に住んでいたこともありますが、良くも悪くも外国人の割合が1割行ったら相当なパワーになります。

○企画課 安田次長

直近では、全体で13万7千人の2.8%が外国人となっております。

○市長

3,500人くらい外国人がいて、その中ではベトナム人が最も多いです。ベトナムの方は特に、ホテルや観光サービス、修理工場などある程度集中して、アパートなどに暮らしているので、ある程度は管理できていると思いますが、徐々に数は増えていることは事実です。

○吉田委員

タウンミーティングでコミュニケーションの問題も、出てきているので、そういう人たちがどの様に感じているのか、木更津がすごくいいと思っているのか、今は疎外されているのかなど、社会的には大事な要素だと思います。

○企画課 安田次長

吉田委員のおっしゃる通り、今回143人参加いただきましたタウンミーティングに参加された方の中には外国人おりませんでした。外国人の方々の意見というのも非常に貴重だと思っております。国際交流協会等もごございますので、何らかの形で意見を把握したいと考えております。アンケートになるのか、ワークショップになるのか、工夫をしたいと思っております。ありがとうございます。

○下村委員

議題3ではなく、遡ってもよろしいでしょうか。

○清水会長

はい。お願いします。

○下村委員

先ほどの市民アンケートの調査で、お答えになっている方が、高齢の方が多いということでしたが、そのまま集計をやると、高齢者比率が高いので、高齢者層の意見が強く出ているのではないのでしょうか。例えば、高齢者が多いと医療等々の話が出てきやすい。子育て世代の比率が少ないと、例えば子育て支援や公園とかいうのが、優先度低く、不満が見えてこないのではないのでしょうか。あまり補正しすぎても良くないですが、結果的に見誤ってもいけない。本当の市民の皆さん全般の、ご希望、優先度っていうのを見損なってもいけないという意味ではいかがでしょうか。

## ○企画課 安田次長

ご意見ありがとうございます。下村委員のおっしゃる通り、皆様からのご意見を平準化しないといけないと思っております。確かに今回、10代、20代、30代、40代というふうに150通ぐらいに平準化させていましたが、結果として60代、70代、80代が多かったというところがございます。ただその若い人たちの方がアンケートに答えてくれなかったという現状でございます。そこを、救う機会としまして、インターネットを通じて行う市民参加型合意形成プラットフォーム「きさらづみなトーク」というものがあります。このプラットフォームは30代、40代の回答が多い状況です。このプラットフォーム上でも夏から秋にかけて市民アンケートを実施したいと考えております。

## ○下村委員

ありがとうございます。

もう一点ですが、SWOT分析についてですが、この結果を間違えるとずれが生じる可能性があるという意味でお聞きします。例えば、先ほどの市民アンケートの、要望事項としては、防災対策などが、一番に上がってきていますが、6ページのSWOT分析では、脅威の中のアクアラインに対して大規模災害とかいうのは出てきますが、アクアラインに限らず、市全体として東海大震災や直下型大震災などが起きた時に、避難所などの防災対策の面で木更津市の強い・弱い・脅威で出てきていないように感じます。

他にも、アクアコインの普及の仕組みが上手くいっているのは、事実だと思いますが、あくまでもアクアコインは、手段の一つで域内経済循環をいかに活発にするかということが目的のはずで、アクアコインだけを普及させるのが目的じゃないはずで、そうすると、中々難しいと思いますが、域内経済活性化に、実際どの程度寄与を確かめていく必要があると思います。あるいは、ポルシェジャパンやクルックフィールズなども記載してあり、これもオーガニックシティとの効果と繋げておられますが、このような施設は、なぜ木更津に、来たかってところまできっちり掘り下げる必要があるのではないかと考えています。というのも市民アンケートでもオーガニックシティのことを初めて聞いた、聞いたことはあるけども、あまりよくわからないのが85%以上の結果にもかかわらず、選ばれるまちとしてのブランド力、持続可能な地域運営に役立つとという評価になっています。それが悪いとかいう意味ではなく、強いところ弱いところは、自己満足ではなく客観的に評価して、出発してくることが、必要な気がしています。答えのないような質問して申し訳ありませんが、そういう意味で、評価などずいぶんやっていますが、もっともっと、掘り下げておかないと、出てきた、結果が間違っ、ずれた認識から出発すると、違った方向に行ってしまうことを危惧しておりますが、いかがでしょうか。

## ○企画課 安田次長

ご意見ありがとうございます。まずこの SWOT 分析におきましては、内閣府が提供しております RESAS といった、AI ソフトを使ったものを一例として挙げさせていただいております。お話しいただきましたアクアラインに関しましては、能登半島の半島性、千葉県半島性といったところの問題や災害に対するリスクや対策といったものを掘り下げて書いていかなければ今後いけないと思っております。

アクアコインにつきましても、確かに普及だけを記載するのではなく、それをどう繋いで域内循環を進めていくか。またそれがどう波及効果されているか。そこにどの関連産業に対して、というところまで掘り下げていかなければいけないというふうに考えております。また、オーガニックに関しても同様だと思っております。

オーガニックに関しても、政策、様々な政策を横軸に掛け合わせて、木更津市はオーガニックなまちづくりを進めているというような書き方は最終的にはしたいと思っております。この基礎資料として RESAS といったものを提案させていただきましたが、皆様から頂いた意見を政策に繋げていきたいと思っております。ご意見ありがとうございます。

#### ○吉田委員

要望的なことになるかもしれませんが、現状分析は詳細でよくわかるし、おっしゃる通り防災とかの分析についても今後あると思いますが、最近の中央の行政を見ますと、やはり環境問題、あるいは成長と経済とのバランスというのは非常に大事だと私も思っています。かずさアカデミアパークは、将来に向かっての資産というか財産ではないかと私は思っています。ですので、かずさアカデミアパーク中心にした DNA 研究所などは、相当大きくなるのではないかと考えていました。将来に向けて 2050 年には、カーボンニュートラルとなっていますし、期待したいと思っております。

もう一つの観点、木更津の文化芸術は昔から伝統がありますが、現状分析すると文化芸術には関心が低い。千葉県の南部地区では木更津が文化芸術では中心都市でずっといるべきであるし、そのために支援や体制、それぞれ持続可能な部分にも関係するのではないかと思います。ご要望です。私が言いたいのは、最初のほうは産官学についてです。今、地方も産官学を組み入れようとしています。そこに上手く乗かって発展していくことは大事だと思っております。そのような中核市になればいいかなと思っております。

#### ○企画課 安田次長

ありがとうございます。かずさアカデミアパークについては、48 施策の中だと産業振興や企業誘致などで、記載をさせていただきたいと思っております。文化芸術施設につきましても、ご承知の通り、令和 10 年度末を目標に吾妻で施設の建設を予定しております。今後の市のシンボリックな施設になりますので、記載をさせていただきたいと思っております。これらを取りまとめ、骨子案等を皆様方に示させていただければと思っております。ありがとうございます。

### ○瀬沼委員

資料のほう拝見いたしました。とてもバランスよくまとめられていて、とても見やすかったです。ありがとうございます。SWOT 分析のところでご質問が出ましたが、同じくご質問させていただきます。例えば、タウンミーティングの中にもありましたが、土地の活用について、市街化調整区域を企業誘致できないかのような意見もありました。例えばこの強み、弱み等の中に、木更津は商業的もしくは住環境の土地って余力があるのか、ないのか。そういうことでいうと、我々は産業支援のお手伝いしますが、木更津に企業出店・企業進出するとなったときに、適切な面積の確保がなかなか難しくなっているような気がします。

逆に、先ほどご指摘いただいた、かずさアカデミアパークとか、わかりやすくここは商業用の場所と示すことで、引っ張りやすかったと思います。こういった中で、土地の部分は強み弱みがどこに入るのを考えた方が良くと思いました。もう一点、同じく SWOT 分析についてですが、「立ち寄り型消費の限界」という言葉がありました。これはアクアラインができてから、この木更津が直面しているところで、同じく我々は現場として地域にいる事業者様に、アクアラインを越えて三井アウトレットパークに来ている 1,000 万人のお客をいかに自分のお店に引っ張るのか、っていうのをお手伝いしています。ここに対して我々は個別には「回遊性」という言葉や、「観光商品化」って形でやっています。これを大きい方向性として行政として方針として出すのかどうか。つまり、この中でいうと、脅威、撤退、弱みの脅威の、そこを避けるってところに、通過型観光からの脱却というのが結局、どこを目指すのか。大きい施策として、近年では、中心市街地活性化、明らかに断言し事業を進めています。それは個別最適に聞こえてしまう。であるならば逆に、それに代わるではありませんが、大きい施策として、いかにあそこに来ている人たちを引っ張るのか。私たち現場では、商工会議所と連携し、アウトレット来訪者を市内の店舗へ誘導する取り組みを進めています。しかし、こうした個別の努力だけでは限界があります。市として、「アウトレット来訪者を市内に回遊させる」という大きな施策を一緒に作っていけるなり、考えていけることは非常にいいのかなと思えました。なぜかという資料 2 の 6 市の情報も全部読ませていただいたところ、千葉市は人口が多いから税収が一定ある。市原と君津と富津には重工業がある。それらが背景にあることに対して、木更津は非常にバランスよく稼ぐことができています。その次のステップとしてどう稼いでいくのかが関わるので、先ほどもお話しした土地の部分。結局土地を住民に住んでもらうようにするのか、商業に使うのか、工場に使うのか、大きい方向性がないと個別に使われてしまうと思います。資料自体はわかりやすいので、次のステップになると思います。

### ○企画課 安田次長

的確なご意見ありがとうございます。確かに土地については、強み弱み両方ともあるのかなという気がしています。富来田地区、中郷地区、鎌足地区などで課題と挙げられたものが、農振の用地を除外して、そこに地区計画というような網を被せて企業誘致したいというご

意見もいただきました。また、強みというのは、アクアラインからの窓口でございますし、金田の区画整理が成功したように、またそのあたりの区画のエリアってというのは、また可能性があるのでないか、そこに産業集積ができる可能性あるのか、といったところも今後皆様方の意見をいただきながら、よりよい基本計画を作っていければと思っております。ありがとうございます。

他に、会議全体を通して、委員の皆様からご質問、ご意見など、ございましたらお願いいたします。

(質疑なし)

#### 4. 閉会

##### ○清水会長

それでは、審議終局と認めます。

以上で予定しておりましたすべての議題が終了いたしました。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご審議いただきましてありがとうございました。

以上をもちまして、第2回木更津市総合計画審議会を終了とし、進行を事務局へお返しいたします。

本日は、ありがとうございました。

##### ○企画課 鎌田係長

ありがとうございました。最後になりますが、市長が参りましたので、一言ご挨拶を申し上げます。

##### ○市長

本日は、総合計画審議会ということで、本当に、お忙しい中お集まりをいただきまして感謝申し上げます。議会が今日で閉会ということで、長引いてしまって、遅れてしまいました。様々なご意見をいただきましたが、今回の第4次基本計画については、再来年度からスタートする計画の策定ということで、2030年に向けて、どういうまちを作っていくかという大きな柱をこれから作るという作業でございます。ぜひ、様々なご意見を付け加えていただいて、木更津の可能性、ご意見あったように、多方面に可能性はあるというふうに思いますので、その中で何を磨いていくのか。全国の地方の都市の課題は、必ずあるし、必ずたくさんある。それをカバーできる何か柱を作っていくというのが地方の大きな課題だと思っておりますので、課題以上に可能性というか、大きな柱が、それに変わっていけるかどうかというのが、それが力の差になっていくと思っておりますので、ぜひアイデアをいただければ

と思っています。

先ほど、ご周辺では重工業が多いという事ですが、木更津はご承知の通り、煙突がないまちということで、海岸線は全て干潟になっているということで、なかなか税収が上がらず、一生懸命、中小企業の皆さんが稼いでいただいて、それで成り立っているというところもあります。ぜひ、大きな重工業がない代わりに、そういう形でみんなで力を合わせて進んでいくというのが木更津の特徴でもあると思いますので、ぜひ、またいろんな方面からのご協力を改めてお願いをさせていただきたいと思います。

また、今日の議会をもって私の任期の作業がほぼ終わって、また次回お会いできるかどうか分かりませんが、ぜひ、皆様のお力で、木更津が少しでもいい方向に行くことをご祈念させていただいて、私から一言お礼とさせていただきます。ありがとうございました。

#### ○企画課 鎌田係長

委員の皆様、長時間にわたるご審議ありがとうございました。

最後に、事務局より、その他といたしまして、2点ご連絡いたします。

1点目は、次回の審議会の開催についてでございます。

資料1のスケジュール表にも記載のとおり、今回は令和8年5月14日(木)の午後2時から開催を予定しております。会場は隣の建物のB館3階の多目的ホールとなります。議題については、現在進行中の第3次基本計画の令和7年度進行管理として、進捗状況などを報告させていただきます。開催通知等は改めて送付させていただきますので、ご出席賜りますようお願い申し上げます。

2点目は、本日、机の上に「きさらづみなトーク」のチラシを配布させていただいておりますので、少しPRさせていただきます。本市では、各種計画や施策を実施する際に、検討初期の段階で市民の皆様からアイデアやご意見を伺うオンライン上のプラットフォーム「きさらづみなトーク」を運用しております。従来より行っております、計画等の最終段階でご意見を頂くパブリックコメントとは異なり、市からの問いに対し、意見募集期間においては、市民が地理的・時間的制限なく空いた時間で投稿できることが特徴であり、現在は登録者が438人となっております。

第4次基本計画策定にあたり、本日ご報告いたしましたタウンミーディングのほか、この「きさらづみなトーク」も活用して多くの市民のご意見を伺いながら進めてまいりますので、委員の皆様におかれましても「きさらづみなトーク」の登録と所属団体の皆様への普及のお手伝いを頂けますようお願いいたします。

連絡事項は以上となります。以上を持ちまして、第2回木更津市総合計画審議회를終了いたします。ありがとうございました。

令和7年度第2回木更津市総合計画審議会の内容について、上記のとおり確認します。

令和8年4月10日

木更津市総合計画審議会 会長 清水一太郎